

第3章 ヘリテージの活用

第1節 ヘリテージはビジネスにつながる

1 歴史テイストの需要

シドニーの街を歩けば 200 年の歴史が見えてくる。植民地時代の、流刑囚によって岩場から切り出された砂岩を積み重ねた壮大な官庁ビルや、アールデコのビル、第二次大戦後のビル建築、そして現代のガラスを多用した高層ビルと、街の顔は重層的である。ここではヘリテージが現役である。内部を大胆に改造されてますますその個性は輝いている。人は、パブの茶色く光るカウンターでビールを頼み、現代的でかつクラシックな高級感に包まれたブティックで買い物をする。ヘリテージを改装したスポットが、シティに集うおしゃれな若者たちを引き付けている。歴史を感じさせるテイストが、顧客を呼ぶ大きな要因であると認識し、ビジネス戦略になっている。パブに限らず、ホテルやレストランでのサービス価格が例え高価であったとしても、豪州では歴史テイストを求める需要がある。

しかし、いくらヘリテージとしての価値があっても、現代生活になじまなければ、そのヘリテージは役に立たない。ヘリテージの個性を活かすのは、現代の建築技術である。豪州のヘリテージの魅力は、現代の便利な生活のなかにある「歴史テイスト、ロマンチズム」を味わうことにある。「歴史性」「美しさ」と「現代の利便性」を備えることが、ヘリテージ活用の鍵である。

写真 15 高級ブランド店が入る
(シドニー市内)



2 豪州不動産市場

豪州ではヘリテージも一般の住宅と同様に不動産取引されている。ナショナル・トラストは、そのホームページ上でヘリテージ住宅の販売やリースを行っており、例えば画面上で「1880年の美しいコロニアル住宅、850,000ドル」と

写真 16、17 外観はそのままに内部を改装、シドニーで最もおしゃれなスポットに変身
(シドニー市内)



いう広告が出ている。シドニー市、アデレード市街には、リースやセールのた
て看板を掲げたヘリテージをよく見かける。

ヘリテージの売買は市場にまかされているが、ヘリテージ不動産の契約書に
は、ヘリテージ登録物件であるという自治体の「鑑定書」が添付されているた
め（不動産会社または所有者は自治体に申請し交付を受ける）売買契約成立前
に、ヘリテージ・リストで住宅のヘリテージ指定箇所を確認することになって
いる。そしてヘリテージ住宅の持ち主には、ヘリテージの価値を損なうことの
ないように配慮し維持する義務が課せられる。

ヘリテージ住宅は比較的高価であるにもかかわらず、美しい庭や独特なノス
タルジアといった新しい住宅にはない魅力のおかげで人気がある。また DIY 精
神の発達しているお国柄が、自分たちで手を加えて復元していく楽しみも魅力
のようであり、そのためのガイドブックがナショナル・トラストや州政府、自
治体から出版されている。NSW州ヘリテージ・オフィスは、ヘリテージの登
録とその保護施策が、ヘリテージ住宅の不動産価値にとって有利に働いてい
ると考えている。

図8 不動産契約書 に添付する鑑定書

写真 18 不動産広告(シドニー市内)



NOTICE OF ORDER MADE
UNDER THE HERITAGE ACT, 1977

Notice is given that an order under section 130 of the Heritage Act, 1977 has been made by the Minister for Planning and Environment in relation to:

the buildings known as "Belvedere" and "Eggleston", Nos. 7 and 11 Cranbrook Avenue, Cremorne.

2. While a Section 130 Order remains in force, it is an offence to demolish an affected building or work.

3. It should be noted that under the Act "demolition" includes the damaging, defacing, destruction, pulling down or removal of a building or work, in whole or in part.

4. The purpose of a section 130 Order is to protect buildings which may be found, on further inquiry, to be of sufficient Heritage significance to warrant the making of a conservation instrument.

5. Any person proposing to demolish or alter an affected building or work may give notice to the Heritage Council by registered mail (P.O. Box A284, Sydney South, 2000). A Section 130 Order remains in force for 40 days after giving such notice or until it is revoked by the Minister for Planning and Environment or until it is superseded by a conservation order, whichever occurs first.

6. Should you have any inquiries concerning this Order please do not hesitate to ring the Heritage Council on 266-7111.

[Signature]

[Signature]
Secretary
Heritage Council of
New South Wales
17. 9.82

第2節 ヘリテージの活用

1 ヘリテージの活用

豪州において、保護されたヘリテージはどのように活用されているのか。ヘリテージの利用方法には大きく次のように分けることができる。

- (1) 従来どおりの継続利用
- (2) 転用

- ・ 博物館への転用
- ・ 博物館以外への転用

当レポートでは、当初の機能を変化させて別の目的に供するタイプを「転用」と呼ぶこととし、事例を紹介する。

2 転用—ヘリテージ保存と開発は並存する

N S W州政府の方針は、ただヘリテージを保存することではない。「将来に伝えるべき過去の遺産を保存」しつつ、「将来の発展のための開発」も必要であるとし、両者の適切なバランスが重要であると考えている。何から何まで古いものを保存するというのではなく、また一方、ヘリテージを破壊するような開発も望んではいない。そこで、「残すべきもの」を見極める点が「ヘリテージ・リスト」である。ヘリテージの情報を記載したリストによって、開発業者と住民は、あらかじめどんな開発が可能、あるいは不可能かを知ることができる。

ヘリテージの保存と開発の接点が「転用」である。N S W州政府は、「ヘリテ

ージがその機能を転用して、適切な活用を図ることができたならば、地域に利益をもたらすことになる」として転用に力を入れている。

同様にアデレード市も転用を促進している。メンテナンスの際には、限られた予算内で最大限の質の高さが得られるように、市は所有者、建築家と十分な協議を行い、ヘリテージがその個性を活かせるように考慮している。そして市からの資金援助は高品質の修繕を促進する。

例えば、住宅だったヘリテージをレストランに改造する際には、次のような手順で行われる。

ゾーニングの確認

変更したい家が市の都市計画上の商業地域にあれば、使用目的の変更が可能である。しかし住宅地で商業施設を認めない地域であれば、変更は難しい。

ヘリテージ要素の確認

ヘリテージ・リストに記載された、ヘリテージの要素を確認する。何を残し、何を壊しても良いのかを把握して、レストランとして使えるよう改修計画をたてる。

開発申請事前協議

開発申請書を市に正式に提出する前に、市と事前協議を行って、保存計画に沿った室内のデザイン、材質、消防基準などに適合した改装計画を決定する。事前に協議することにより、申請事務をスムーズにすませることができる。

開発申請

開発許可

改修工事 工事中、市は進行状況を確認する。

助成金の申請 改修工事の終了後、HIS助成金を市に申請する。

3 博物館

ヘリテージを利用する古典的な手法が博物館である。豪州においては、比較的大規模な州レベルのヘリテージの転用に多く見られる手法である。

植民地時代の刑務所や囚人宿泊所を博物館にしている例は、流刑地として始まった豪州の歴史的背景もあり、どの州にもある。その運営主体は、州政府機関や（NSW州のハイドパーク・バラックス（写真）、WA州のフリマントル刑務所）、ナショナル・トラストといったNPOである（VIC州のオールド・メルボルン刑務所）。

NSW州歴史的建築物協会（Historic Houses Trust of NSW）は、現在7つの博物館を運営している。その1つ、スザンナ・プレイス（州指定ヘリテージ）は、入植の地であるシドニーのロックス地区に現存する最古の住宅であるが、剥がれ落ちた壁の塗装もそのままに、あえて「改修しない」というユニークな方針で保存している。

しかしヘリテージの博物館運営は今、転換期を迎えている。当協会は「かび臭い博物館よりは、家としての機能を生かしたほうが良い」という方針に変わりつつある。

写真 19 スザンナ・プレイス（シドニー市内）



写真20 ハイパーク・バラックス（シドニー市内）



第3節 博物館以外への転用

シドニー市は、ヘリテージの再利用を「環境にやさしい開発」であるとしている。取り壊せば大量の廃棄物が出ること、また新しいビルを建てるためには建築資材が必要であり、エネルギーを消費することなどからである。市は近年、「リビング・シティ」戦略のもと、建築物の個性を活かせる転用を心がけて、

多くの歴史的建築物を再利用してきた。改装して内部を撤去した場合、必ず写真等(改装の記録撮影したものや図面、古写真)を展示することとされており、市内のあちこちで見ることができる。

写真21 古写真を掲示する。QVB。(シドニー市内)



豪州では多くのヘリテージが、本来の用途を脱し、活用されている。転用を大まかに以下の5つに分類して、それぞれの事例を紹介する。

- (1) サービス業(カフェ、レストラン、ホテル)への転用
- (2) 住宅、アパートメントへの転用
- (3) 劇場、エンターテイメント施設への転用
- (4) 企業オフィスへの転用
- (5) 公共施設への転用

1 サービス業(カフェ、レストラン、ホテル)への転用

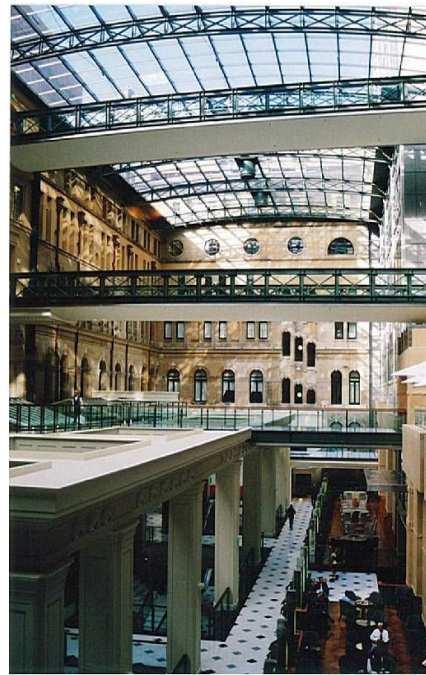
(1) 中央郵便局をホテルに(NSW州シドニー市)

中央郵便局(略してGPOと呼ばれる)であった壮麗な建物は、国指定、州指定のヘリテージである。「ヘリテージ保存と改修、転用におけるベンチマーク的事業」と高く評価されている。

シドニー市の「リビング・シティ」施策の一環で、隣接するマーティン・プレイス広場の整備とともに7億ドルかけて改装した。ウェスティン・ホテルが当ビルを買い取り、新たに31階の宿泊ビルを接続した。増築部分の外装は、金属と、GPOと同じ砂岩を用い、現代建築とGPOとが調和するように配慮している。服飾小売店、オフィス、フードコート、レストラン、カフェ、ジム、地下駐車場を併設し、郵便局もそのまま残っている。歴史的建築物の個性を保存

しつと大胆に改装された。ガラス屋根をかけ作られた高さ 28m の吹き抜け空間は開放感に満ちている。クラシックかつモダンという雰囲気が、結婚式の写真撮影ポイントとして人気がある。

写真 22、23 中央郵便局の外観と大胆に改装した内部(シドニー市内)



(2) 倉庫棧橋をホテルに(NSW州シドニー市ウールームールー)

シドニー市街地の東、ウールームールー湾に、全長 440m の木造の倉庫棧橋がある。1911 から 1915 年にかけて建設され、羊毛や貨物の運搬基地として、また移民の受入れ地として、シドニー圏の重要な港であった。

しかし 1970 年代から、物資輸送の手段が飛行機に取って代われ埠頭の役目は失われたため、1987 年、州政府は倉庫棧橋の取り壊しを決定した。シドニー発展のシンボルであるとして、地元の人々、港湾労働者、ナショナル・トラスト、豪州建築家協会は、取り壊しに反対した。州政府、ヘリテージ評議会、保護活動家、開発業者は 3 年もの間、埠頭の将来について議論を続け、1992 年、ついに州政府は決定を撤回し、保存計画が始まった。

再開発事業の運営と改修工事は入札にかけられた。羊毛の保管と運び出しの施設は 1 億ドルをかけ、4 階建て 312 戸のアパートメント、108 部屋の高級ホテル、レストランに生まれ変わり、2000 年 3 月にオープンした。羊毛運搬のベルトコンベヤーはそのまま保存され、モダンなカフェ・バーのアクセントになった。木製デッキに面した地上階にはレストランやカフェを置き、テーブルを出

して市街地の高層ビルと植物園の緑、停泊するヨットを眺めながらお茶を楽しむことができる。現在、この地区は市街地から歩いて行ける静かなお洒落スポットになっている。

写真 24 ウールームールー埠頭(シドニー市内)



写真 25 コンベヤーをそのままに、おしゃれな空間に変身



(3) 個人住宅をゴルフハウスに(NSW州ペンリス市)

ペンリス市はシドニー市の西に位置する人口 17 万人の町である。豪州の郊外には、羊農場や畑の広大な土地を所有していた富裕層の邸宅が存在する。1900 年代の住宅はフェデレーション様式と呼ばれ、人気がある。

市のヘリテージに認定されている邸宅が、現在、韓国資本の企業が経営する「グレンモア・ゴルフ・クラブ」のクラブハウスとして利用されている。1997年に保存計画を策定し、納屋を店舗に転用する改修工事を行った。改修の際には、市のヘリテージ担当者が床石や天井の梁の保存指導を行った。隣に新しく倉庫を建設したが、デザインや材質・色をあわせ、調和を図っている。

写真 26 クラブハウスになった元邸宅(ペンリス市内)



写真 27 売店も納屋を利用。改修工事の様子(提供:ペンリス市)



(4)税関をレストラン、展示スペースに(NSW州シドニー市)

サーキュラー・キーの港の正面にある旧税関（カスタムズ・ハウス）は、シドニー市が所有する国家遺産、州の永久保存指定建造物である。シドニー市の「リビング・シティ」施策により、6年かけて改修された。連邦政府の「歴史的建築物の大型文化ツーリズム施設創設助成金」2400万ドルを受けた。

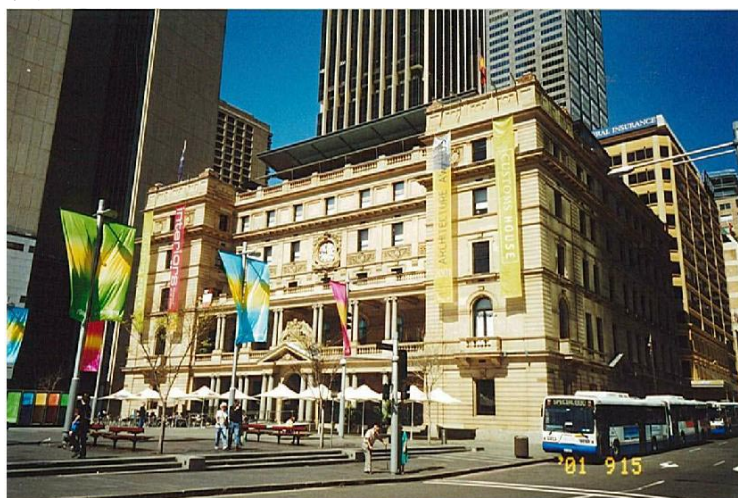
外壁をそのまま残した姿からは全く想像つかないほど、内部は大胆に改修されている。天井を取り払い、コンピュータ制御で開閉するガラス屋根を葺いた。6階分の吹きぬけが、開放感あふれる快適な空間を提供している。太陽光発電を備え、現代のエコロジー施策にも対応した。

市は2つの展示スペースを運営し、都市計画やデザインをテーマにした企画展を常時開催している。またカフェが2軒、レストランが2軒あり、これらはリース委託である。素晴らしい眺望を持つレストランは大変人気があり、予約が必要である。観光地サーキュラー・キーのアイコン的存在である。

写真 28 大胆に改装した内部



写真 29 カスタムズ・ハウス外観(シドニー市内)



(5)市場をショッピング・モールに(NSW州シドニー市)

クィーン・ビクトリア・ビルディング(略してQVBと呼ばれる)はシドニー市所有のヘリテージである。シドニー市が植民地政府から引き継いだ。何度も取り壊しの危機に瀕した。1960年代の開発計画に伴う撤去案に対し、ナショナル・トラスト、建築家、市民、王立豪州建築家協会が保存を訴えたため、1971年にシドニー市長がQVBの保存を宣言した後、今後の利用法が検討された。

1980年、改修計画案を世界中に公募した。ヘリテージ保存、技術的な問題、運営方法に関して3年間の協議を重ね、1983年、シドニー市は民間企業と99年のリース契約を交わした。

第4期「リビング・シティ」施策により7500万ドルをかけて改修した後、1986年、市場は200店舗がひしめく「世界で最も美しい」と表されるショッピング・モールに生まれ変わった。店舗の占有率が高く、その運営は大変成功している。QVBの中をまわるツアーも催行されている。

写真 30 QVBの愛称で親しまれる。(シドニー市内)



写真 31 世界で最も美しいショッピング・モール



(6)「海の家」をカフェレストランに(NSW州モスマン市)

シドニー市からシドニー湾をへだて北東に位置するモスマン市 (Mosman Municipal Council) は、高級住宅地を抱える人口 25,000 人の町である。モスマン市は 1929 年、バルモラル・ビーチ振興事業の一環でベイザーズ・パビリオン (Bathers Pavilion) を建設した。更衣室やトイレ、シャワーなどを備えた、海水浴客 (住民) のための施設である。1998 年、市は 3 万ドルをかけてレストラン施設へ改修したのち、民間企業とリース契約を交わした。現在は海岸のお洒落なカフェとして、人気がある。

写真 32 もとは海水浴客の施設。(モスマン市内)



2 住宅、アパートメントへの転用

(1)羊毛倉庫をホテル、アパートメントに(NSW州シドニー市)

ゴールドズブロウ・ビル (Goldsbrough Building) は、羊毛取引で成功した商人ゴールドズブロウのオフィス兼倉庫であった。巨大なレンガ建築をアパートメントとホテルに転用した。内部を空洞にし、採光している。

写真 33 レンガづくりの外観
(シドニー市内)

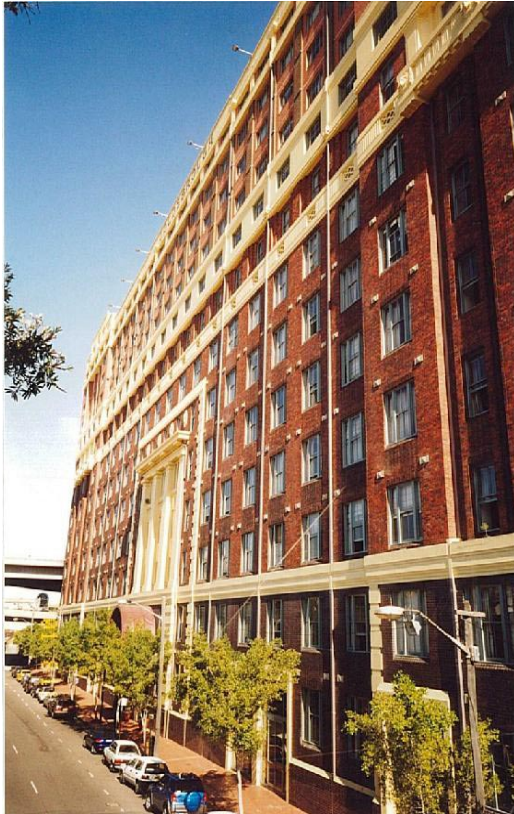
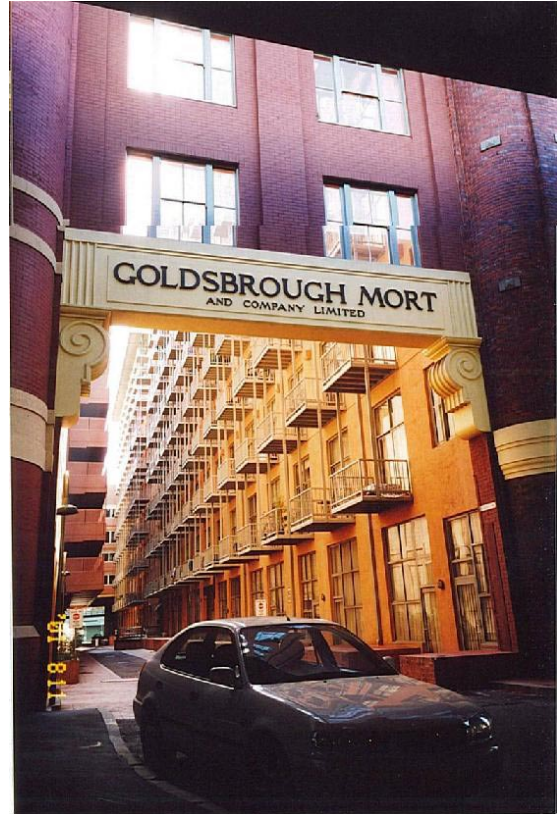


写真 34 アパート、コンドミニウムに転用



(2)教会をアパートメントに(NSW州シドニー市)

スコッツ教会 (Scots Church) は、1930 年に建築された教会である。2001 年、民間不動産会社による 159 戸のアパートメント開発計画が、シドニー市のシドニー中央区開発審査委員会の承認を得、改装工事が始まった。20 階建ての高層アパートを増築する。入居募集広告は「古さと新しさが同居する、市内で最もお洒落な住宅」と宣伝し、宗教的建築物までも商用に転用している。(2002 年完成予定)

写真 35 アパートへの転用が決まった教会。 写真 36 早くも入居募集の広告が。
(シドニー市内)



3 劇場、エンターテイメント施設への転用

(1) 桟橋を劇場、バー、オフィスの複合施設へ(NSW州シドニー市)

ウォルシュ・ベイにある第1～9桟橋は、20世紀初頭に建設され、材木、羊毛貿易が盛んであったシドニーの歴史を物語る証人としてその価値を認められた州指定ヘリテージである。

転用されたのは3つの桟橋で、他は取り壊しの危機にさらされている。第1桟橋は、ジャズライブのあるカフェバー・エンターテイメントと、レストランである。第4・5桟橋は、シドニー・シアター・カンパニーという劇団の劇場兼事務所となっており、衣装や舞台施設の展示も行っている。広いスペースを活かして舞台装置を製作している。ハーバーに突き出した先端部分にあるカフェレストランでは、ハーバーブリッジをのぞむ素晴らしい眺望を楽しむことができる。

写真 37 第1棧橋。披露宴会場としても人気(シドニー市内)



写真 38 第4・5棧橋のシドニー・シアター・カンパニー事務所と劇場



写真 39 海の上の劇場



(2)官公庁のビルをカジノに(クイーンズランド州ブリスベン市)

1886年に建設されたクイーンズランド(QLD)州政府の財務省は、砂岩の壮麗な建物である。所有は州政府であるが、民間企業にリースし、1993年州最大規模のカジノへと転用した。その名も「The Treasury Casino(カジノ・財務省)」。カジノ施設への転用工事は、州のヘリテージ法に従い、外観はそのままとし、内装も破壊しないように配慮された。

同様に、SA州では、1920年代に建設された駅の2、3階をカジノに転用している。

写真 40 ギャンブル心を誘う「財務省」。(ブリスベン市内)



写真 41 駅の上にカジノ(アデレード市内)



(3) 州政府が運営する劇場、多目的ホール(SA州アデレード市内)

アデレード市の中心に位置する旧女王劇場(Old Queen's Theater)は、1840年に元囚人であった裕福な個人によって建設された。国家遺産に登録されており、1841年に「オセロ」を初演、豪州で2番目に古い劇場である。劇場としての運用は1年で失敗し、植民地政府の裁判所として使用された。その後、幾度も劇場として復活と閉鎖を繰り返かえし、また何人もの所有者の手を経て、倉庫やビリヤードルーム、展示場などに利用された。

1973年より当劇場は、州政府資産管理公社の所有であったが、1980年代後半、SA州環境及びヘリテージ省(Ministry of Environment and Heritage)に移され、現在、ヘリテージ局(Heritage SA)が管理している。

1996年、州政府は、劇場及び多目的ホールとして再びオープンさせ、13万ドルをかけて屋根の張替えを行い、劇場設備を整えた。オペラ、舞台を上演するほか、運営委員会を設立して個人・法人を問わず貸し出している。

写真 42 旧女王劇場の外観(アデレード市内)



4 企業オフィスへの転用

(1) 棧橋をオフィスへ

ウォルシュ・ベイ第8棧橋は、先述の第4・5棧橋と同様に、転用されている。現在は、マードック・マガジン誌の「海上のオフィス」になっている。

写真 43 第8棧橋。海上のオフィス(シドニー市内)



(2) 羊毛倉庫をオフィスに(NSW州シドニー市)

ケント通りは、通り全体がシドニー市のヘリテージとして登録されている。レンガづくりの建物は、もとは輸出用羊毛の倉庫として使用されていたが、現在はオフィスのテナントビルになっている。ファサードと呼ばれる外壁を残して内部を改装し、駐車場スペースを作ったり、中に玄関を設けて現代のオフィス空間を作っている。通りの赤レンガの景観は保たれている。

写真 44、45 レンガの外観はそのままに、駐車スペースをつくり、オフィスとして利用(シドニー市内)



5 公的利用

(1)個人邸宅を市議会に(NSW州ウーラーラ市)

ウーラーラ市 (Woollahra Municipal Council) はシドニー市の東、シドニー湾に面した高級住宅街を抱える。「レッドリーフ・ビラ」は、19世紀に成功した商人の邸宅として1863年に建てられた。1940年にウーラーラ市が購入し、1961年から市議会として使用した。

1997年、老朽化のため建物を取り壊すか又は改築するかを民間の建築家と協議して、復元を決定。過去の増築部分を取り払い、庭園との調和を図って、訪れた市民がシドニー湾の眺望を楽しめる空間を作った。庭園の地下に新しく2,000㎡のオフィス空間を作り、市民サービスセンターを置いた。また、ソーラーシステムを取り入れるなど、エネルギー効率へ配慮している。この改修は、2001年ナショナル・トラスト (NSW州) 賞の転用部門を受賞した。

ウーラーラ市に限らず、建物内部を改装したり増築したりして、古い建物を使用している例は、シドニー市、アデレード市、モスマン市、ブリスベン市 (QLD州) など多く見ることができる。

写真 46 個人邸宅を転用した市役所(ウーラーラ市内)



写真 47 地下は市のオフィスとカスタマーセンター(ウーラーラ市内)



写真 48 議会庭園には地下オフィスの明り取り(ウーラーラ市内)



写真 49 議会は街のシンボル(アデレード市内)



(2)ヘリテージを購入して、市役所に改装(TAS州ホバート市)

ホバート市役所は、新しくカスタマーサービスセンターをつくるため移転を計画し、建物を探した結果、1994年、市議会に近く通りの角にある等立地条件の良い現在の建物を購入した。このビルは、州政府の水資源開発公社が所有する1938年建設のアールデコ様式で、市は1階を改装してカスタマーサービスセンターを置いた。1995年にオープン。町の歴史の証人としてのヘリテージを市役所に転用することは重要であると市側は考えている。

写真 50 市役所の外観(ホバート市内)



写真 51 ホバート市カスタマーセンター



(3)170年の歴史を有する州議事堂と現代建築(NSW州)

1816年に建設された病院を、1829年に議会へと「転用」したNSW州議事堂は、シドニー市指定のヘリテージである。現在も議場をそのまま利用しているが、議員数の増加や事務の効率化に対応するため、1972年から10年の歳月をかけて、事務室と議員室を増改築した。ヘリテージである議会棟との中継ぎに中庭と噴水を配し、12階建てのビルを建設した。この現代建築は、議事堂や隣の図書館等と調和を図るために砂岩色のベージュでまとめられ、しかも表通りからはいっさい見えない配慮がなされている。

写真 52 NSW州議会正面。
背後のビルが見えない(シドニー市内)



写真 53 上から見た議事堂。



(4) 最古の住宅を事務所に(NSW州政府、シドニー市)

最初の上陸の地であるロックス地区に現存する最古の住宅が、カドマンの小屋である。1972年にNSW州の州立自然公園局の所有になり、修復が行われた。1996年、家屋の2階部分をインフォメーション・センターに改装、シドニー湾岸の自然公園のツアー予約や情報提供の拠点となっている。1999年には1階を発掘展示場として無料公開し、入植当時の歴史を伝えている。

写真 54 最古の住宅、カドマンの小屋(シドニー市内)

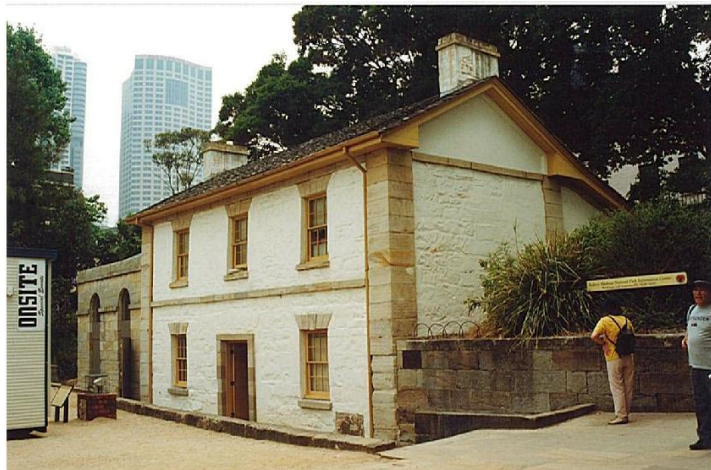


写真 55 1階内部は発掘展示



第4節 転用に伴う問題

1 商業転用と景観保全

ヘリテージを商業施設に転用した際には、表に商業広告を取りつけることが一般的である。自治体は、開発規制計画（Development Control Plan：DCP）により、商業的要求と景観への配慮というバランスを取っている。

シドニー市は、DCPによる事業主との協議を重ねて景観配慮への協力を得ている。世界的にフランチャイズ展開をしているマクドナルドやケンタッキーのトレードマークは控えめである。通りの看板のサイズを統一している例もある。ヘリテージと階の高さをそろえたり、ベージュ・ブラウンなど「砂岩」に近い色彩を用いるなど、DCPは建築物のデザインも規制している。

写真 56 大手フランチャイズ店舗（シドニー市）

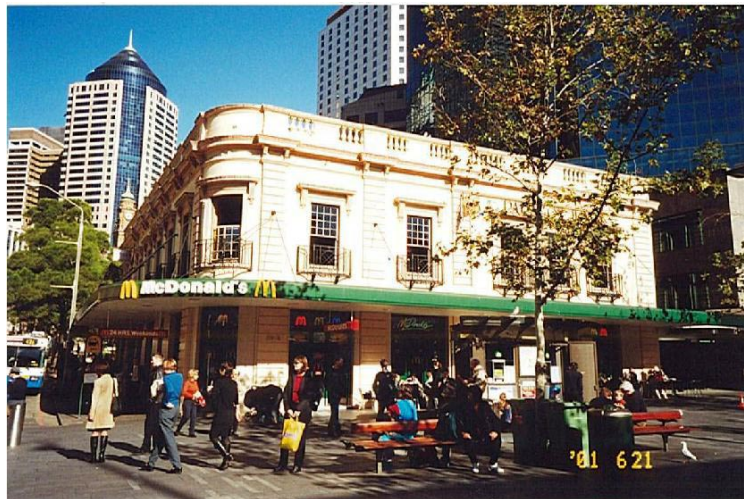


写真 57 建物のフロア高をヘリテージにそろえる。(シドニー市内)



写真 58 看板に統一性を持たせる。
(シドニー市内)



写真 59 ヘリテージに似合う看板を



写真 60 商業サインにも配慮(シドニー市内)



写真 61 奥に高層ビルを建設



写真 62 色をそろえる。(シドニー市内)



VIC州メルボルン市の東南に位置するストニントン市（Stonnington City）は、チャペル通りという商業地区を抱えている。ここに、もとジャム工場であったレンガ造りの建物をエンターテインメント複合施設へと転用した例がある。大手映画配給会社が入るこの商業施設は装飾過多で、派手な色彩とプラスチックに覆われている。内部には当時の工場煙突が1本残されているが、個性を活かしていない事例である。

写真 63 レンガ壁の個性が活かされていない例(ストニントン市)



写真 64 派手な広告に覆われた店舗(シドニー市)

